

はじめに
進捗報告
先週までの内容

証拠に基づく政策立案のための 潜在プロファイル分析と数法則発見法を用いた 社会実情のモデル化と可視化

長瀬 永遠

富山県立大学 情報基盤工学講座

January 19, 2024

本研究の背景

現在、EBPM の推進に向けて様々な取り組みがなされている。一方、いくつか課題も挙げられており、その中にデータの更新頻度が低いということがある。

本研究の目的

- 既存のデータから最新のデータを予測する手法を提案する
- 上記の手法の結果を用いて後述のシステムを改善する

はじめに

進捗報告

先週までの内容

先行研究

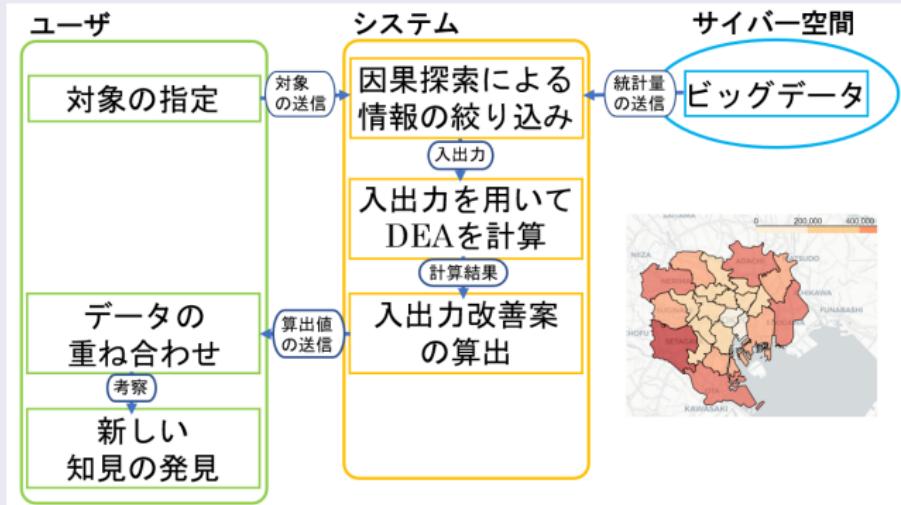


図 1: 先行研究

進捗報告 1

RF6.4 で求めたい多変量多項式

はじめに

進捗報告

先週までの内容

$$f(\mathbf{q}, \mathbf{x}; \Theta) = c_0 + \sum_{j=1}^J c_j m_j,$$

$$c_0 = \sum_{r=1}^R v_{0r} \sigma_r, \quad c_j = \sum_{r=1}^R v_{jr} \sigma_r \quad (1)$$

$$\sigma_r = \sigma \left(\sum_{k=1}^{K_1} \sum_{l=1}^{L_k} v_{rkl} q_{kl} \right), \quad m_j = \exp \left(\sum_{k=1}^{K_2} w_{jk} \ln x_k \right)$$

\mathbf{q} : 入力変数（質的）, \mathbf{x} : 入力変数（量的）,
 $\Theta : \{\mathbf{v}_0, \mathbf{v}_j, \mathbf{v}_r, \mathbf{w}_j\}$

進捗報告 2

5/20

学習問題の定式化

はじめに
進捗報告
先週までの内容

$$f(\mathbf{x}; \theta) = w_0 + \sum_{j=1}^J w_j m_j, \quad m_j = \exp \left(\sum_{k=1}^K w_{jk} \ln x_k \right) \quad (2)$$

$$E(\mathbf{x}; \theta) = \frac{1}{2} \sum_{\mu=1}^N (f(\mathbf{x}^\mu; \theta) - y^\mu)^2 \quad (3)$$

N : サンプル数

進捗報告 3

6/20

学習アルゴリズム

BPQ 法 (Back Propagation based on Quasi-Newton)

はじめに

進捗報告

先週までの内容

パーセptron の 学習 : BPQ 法

① θ_1 の 初期化

- パターン 1: $w_0 = y$ の平均値, $w_j = 0$, $w_{j,k} = (-1, 1)$ の一様乱数
- パターン 2: 全ての重みを $(-1, 1)$ の一様乱数
- $H_1 = I$, $s = 1$ とする
- I は 単位行列 (対角成分が全て 1, その他が全て 0 の行列)

② $\Delta \theta_S = -H_S \nabla E(\chi; \theta_S)$ を 計算

停止条件を満たせば、反復を終了。

- 停止条件: 勾配ベクトル $\nabla E(\chi; \theta_S)$ の全成分が 10^{-5} 未満 or 反復 20,000 回

($\nabla E(\chi; \theta_S)$ の 計算方法)

$$\begin{aligned}\nabla E(\chi; \theta_S) &= \frac{\partial E}{\partial \theta} = \sum_{h=1}^N (f^h - y^h) \frac{\partial f^h}{\partial \theta} \\ &= \sum_{h=1}^N (f^h - y^h) (1, \{m_j\}, \{w_j m_j \ln \chi_h\})\end{aligned}$$

\checkmark \text{check 1: ベクトル偏微分の解釈}

$$m_j = \exp \left(\sum_{k=1}^K w_{jk} \ln \chi_k \right)$$

次のノートへ

進捗報告 4

7/20

③ $E(x; \theta_s) + \alpha_s \Delta \theta_s$ を最小にする α_s を求める

(用いる表記の解説)

。 $E(x; \theta)$ は E , $f(x; \theta)$ は f と表記

。 $E(x; \theta + \alpha \Delta \theta)$ は $g(\alpha)$ と表記

|| check 2: $g(0)$ の解釈

(α_s の求め方)

$g(\alpha) \approx g(0) + g'(0)\alpha + \frac{1}{2}g''(0)\alpha^2$ を最小化する α を求める.

$$- g(0) = E$$

|| check 3: $\Delta w_j, \Delta w_{jk}$ の解釈

$$- g'(0) = \sum_{j=1}^n (f^m - y^m) f^m$$

|| check 4: 計算のコ-ティンゲミス

$$- f^m = \Delta w_0 + \sum_{j=1}^n (\Delta w_j m_j^m + w_j m_j^m)$$

$$- m_j^m = m_j^m \sum_{k=1}^K \Delta w_{jk} \ln x_k^m$$

$$- g''(0) = \sum_{j=1}^n ((f^m)^2 + (f^m - y^m) f^{mm})$$

$$- f^{mm} = \sum_{j=1}^n (2 \Delta w_j m_j^m + w_j m_j^{mm})$$

$$- m_j^{mm} = m_j^m \left(\sum_{k=1}^K \Delta w_{jk} \ln x_k^m \right)^2$$

ただし, $\Delta w_0, \Delta w_j, \Delta w_{jk}$ は ②で計算される $\Delta w_0, \Delta w_j, \Delta w_{jk}$ の変化量

進捗報告 5

8/20

はじめに

進捗報告

先週までの内容

① $g'(0) > 0$ のとき

check 5: ④の解説(④の後、④の処理を行つか)

②の結果を $\Delta \theta = -\nabla E$, $H = I$ に置き換えて ②-1, ②-2 のどちらかへ進む

②-1 $g'(0) < 0$ かつ $g''(0) > 0$ のとき

$$\alpha = -\frac{g'(0)}{g''(0)}$$

②-2 $g'(0) < 0$ かつ $g''(0) \leq 0$ のとき

$$\alpha = -\frac{g'(0)}{\sum_{i=1}^M (f_i^{(0)})^2}$$

また, $\alpha > 0$ のとき, $S = M$ とし, $H = I$ とする.

→ パラメータの次元: $(KJ + J + 1)$

次のページ

進捗報告 6

9/20

はじめに

進捗報告

先週までの内容

③ $\|\alpha A\theta\| > 1.0$ のとき

$$\alpha = 1.0 / \|A\theta\| \text{ とする}$$

また, $S = M + I$, $H = I$ とする

④ $g(\alpha) \geq g(0)$ のとき

$$\alpha = -\frac{g'(0)\tilde{\alpha}^2}{2(g(\tilde{\alpha}) - g(0) - g'(0)\tilde{\alpha})}, \text{ ただし, } \tilde{\alpha} \text{ は } ③ \text{ で得られた } \alpha \text{ の値}$$

* $g(\alpha) < g(0)$ の場合は ④ を繰り返す

④ $\theta_{s+1} = \theta_s + \alpha_s A \theta_s$ は修正法

⑤ $S \equiv 0 \pmod{M = KJ + J + 1}$ のときは $H_{s+1} = I$ とし,

それ以外の場合, BFGS 公式を用いて H_{s+1} を更新する。

$s \leftarrow s + 1$ して ② に戻る

check 6: λ_s の解釈

(BFGS 公式)

$$H_{s+1} = H_s + \left(1 + \frac{q^T H_s q}{p^T q}\right) \frac{pp^T}{p^T q} - \frac{p q^T H_s + H_s q p^T}{p^T q},$$

$$P = \lambda_s A \theta_s, \quad q = \nabla E(x; \theta_{s+1}) - \nabla E(x; \theta_s)$$

$$\int \alpha_s$$

進捗報告 7

10/20

最適中間ユニット数 J の決定

このモデルの場合、最適中間ユニット数 J と多変数多項式の項数は同じになるので、BPQ 法での学習は事前に J を指定し、 $J = 1, 2, 3, \dots$ と変化させながら行う。最適なモデルの選択（項数の選択）は各 J の値において以下の BIC（ベイズ情報量基準）を算出し、その値が最も小さいものを選択する。

モデル選択：BIC

J の値を $1, 2, \dots$ と変化させ、以下の $BIC(J)$ が最小となる J を最適なモデルに選択する

$$BIC(J) = \frac{N}{2} \log \left(\frac{1}{N} \sum_{i=1}^N (f(x_i; \hat{\theta}_J) - \hat{y}_i)^2 \right) + \frac{M}{2} \log N$$

ただし、 N : 総サンプル数、 M : 総パラメータ数。
 $\hat{\theta}_J$: 各 J における BPQ 法の結果

進捗報告 8

11/20

やること

- ① コードのデバッグ
- ② 数値実験
- ③ 卒論時システムと合わせる
- ④ 本論執筆

はじめに

進捗報告

先週までの内容